

福澤諭吉記念全国高等学校弁論大会第 60 回記念大会

担当：生涯学習推進室 山本・中原（電話 0979-62-9012）

本大会は、中津にゆかりの深い偉人、福澤諭吉の遺徳を顕彰し、全国の高校生の弁論力の向上と大会を通じた交流を目的に毎年開催し、今回で 60 回を数える歴史のある全国大会です。高校の弁論指導者からは「弁論の甲子園」と称され、全国トップレベルの大会として位置づけられており、全国の弁論に励む高校生の憧れの舞台となっています。

今回も北は北海道から南は沖縄県まで、原稿審査を通過した高校生弁士及び招待弁士、留学生弁士、基準弁論弁士の計 26 名が出場します。



60 年のあゆみ

昭和 36 年、元慶應義塾大学教授の池田弥三郎先生が中津に立ち寄り、福澤旧居を見学した折、当時の深尾新吉中津市長、中津三田会会長などが集まり、池田先生を囲む懇談会が催されました。そこで、慶應義塾も命名 100 周年も控えていたため、福澤諭吉先生の遺徳を顕彰するために記念になるような行事を中津市で開催しようということになり、中津市と慶應義塾の共催で慶應義塾の先生を講師に迎えた文化講演会と全国高等学校弁論大会を行うこととなりました。



昭和 37 年 4 月 23 日に福沢会館で第 1 回目が開催され、栄えある第 1 回の最優秀校は、福岡県の三池高等学校でした。昭和 49 年の第 13 回大会から 15 回大会まで岡山県の倉敷中央高校弁論部が、3 年連続で全国優勝を果たしました。その快挙を記念して、大会優勝旗を同校に永久保存することになりました。次の 16 回大会から新調された優勝旗は 49 回大会まで使われ、現在の優勝旗は第 50 回記念式典の場で慶應義塾より寄贈していただいたものになります。大分県内の高等学校の優勝は、過去 16 回、市内は中津工業 (S42)、中津商業 (S58)、中津北 (S59)、中津南 (H10) の弁士が優勝しています。

会場は、昭和 54 年の 18 回大会から中津文化会館に移り、現在に至っています。

60回記念として

- (1) 大会当日に聴衆の市内高校1年生対象に記念講演を開催します。講師は、慶應義塾名誉教授（福澤研究センター元所長）の小室正紀（まさみち）氏です。演題は「福沢諭吉と演説」です。福沢諭吉の生き方や功績に関係する話に絡め、生徒たちが夢や希望を持ち、それを実現するためにはなすべきかというお話していただく予定です。
- (2) 従来の最優秀賞、優秀賞、入選以外に「第60回記念賞」を授与します。
- (3) 関係者に記念クリアファイルを配布します。

大会の概要

日時、場所、主催・共催・後援、審査員（別紙要項）

出場者 26名（別紙弁論内容一覧）

- (1) 原稿審査による出場16名（応募27名）
- (2) 大分県、沖縄県大会上位者（各2名）
- (3) 外国人留学生
1名（岩田高校男子、フィリピン出身）
- (4) 市内高等学校代表
4名（中津南、北、東、東九州龍谷高校）
- (5) 基準弁論者 1名（東九州龍谷高校）



係生徒、聴衆

中津南、中津南耶馬溪校、中津北、中津東、東九州龍谷高校 約800人

日程（予定）

【2日（木）】

- 15:00～ 福澤旧居・記念館、寺町見学（希望者）
- 17:30～ 講話（審査員長 井奥成彦慶應教授）
市役所3F大会議室
- 18:00～ 弁論順抽選会 市役所3F大会議室
- 18:30～ 審査員打合せ会



【3日（金）】

- 8：30～ 舞台上で、記念撮影（弁士、審査員、講師、主催者）
- 9：00～ 開会行事 優勝旗返還（九州文化学園高校）、中津市長、慶応義塾あいさつ
- 9：25～ 基準弁論（基準点の算出）
- 9：40～11：20 1番～12番弁士弁論
- 11：20～ 60回記念講演
- 11：50～12：15 聴衆入れ替え
- 12：20～14：13 13番弁士弁論（留学生弁士）～25番弁士弁論
- 14：13～ 60回記念講演
- 14：55～ 表彰式（無観客）
- 15：20 閉会

表 彰

- (1) 最優秀賞（1名）慶応義塾塾長賞（大会優勝旗） 中津市長賞（市長杯及び副賞）
副賞「福澤先生の足跡を訪ねて」15万円分旅行券
- (2) 優秀賞（10名）賞状、トロフィー
大分県知事賞・大分県教育長賞・中津市議会議長賞
公益財団法人福澤旧邸保存会理事長賞・OBS大分放送社長賞
TOSテレビ大分社長賞・OAB大分朝日放送社長賞
中津三田会会長賞・国際ソロプチミスト中津会長・NP0法人中津文化協会理事長賞
- (3) 入選（上記各賞以外の出場者）賞状、基準弁論弁士・留学生弁士に記念のトロフィー
- (4) 第60回記念賞 トロフィー

新型コロナウイルス感染拡大防止対策

- (1) 出場弁士は、体温を記録するなど事前の健康管理を行う。
- (2) 前日、当日ともに検温、手指消毒を行う。熱が高い、体調が悪い人は出場できない。
- (3) 前日の弁士交歓会は行わない。
- (4) 弁論時、弁士はマスクを着用しない。弁士の前面には飛まつ防止用のアクリル板を設置し、一人毎に消毒をし、マイクと一緒に取り替える。
- (5) 聴衆は市内高校生のみとし、座席はひとつ空けて着席する。
- (6) 前半と後半の間の聴衆の入れ替え時に、大ホール内の換気を行う。
- (7) 表彰式への参加は出場弁士、引率者、主催者のみとする。
- (8) 会場内の全ての人に対し、手指消毒、マスクの着用を徹底させる。